



混合ワクチンを接種するねこちゃんのオーナー様へ

ワクチンは伝染病予防のための薬です。ワクチンを接種することで、病原体への抵抗性が高まり、感染の予防や、発症しても軽く済むようになります。

ワクチンの接種方法は、**世界小動物獣医師会（WSAVA）**からガイドラインが発表されています。ガイドラインは最新の科学的知見に基づいて、安全にかつ免疫学的に正しいワクチン接種ができるように作成されています。そしてワクチンによるアレルギーなどの副作用が出ないように成猫以上での接種頻度を減らすように推奨しています。

ワクチンの分類

混合ワクチンは予防できる病原体の種類により 3 種や 5 種混合ワクチンなどと呼ばれています。混合ワクチンの中には、コアワクチンとノンコアワクチン、非推奨ワクチンがあります。

○コアワクチン：世界中で感染、臨床症状が重度

- 猫パルボウイルス
- 猫ヘルペスウイルス 1 型
- 猫カリシウイルス
- 狂犬病

○ノンコアワクチン：地理的要因、暴露リスクにより必要性が異なる

- 猫白血病ウイルス
- 猫免疫不全ウイルス（猫エイズ）
- クラミジア
- ボルデテラ

○非推奨ワクチン：接種は正当化されていない

- 猫伝染性腹膜炎（FIP）

子猫への接種（コアワクチン）

子猫の時のワクチンは非常に重要で、免疫を獲得することでウイルスへの抵抗力をつけます。しかし子猫の時のワクチンは接種のタイミングによっては効かないことがあり、その最大の理由に母親からの移行抗体があります。移行抗体は初乳に含まれており、生まれたばかりの動物を感染症から守ります。

この母親からもらった免疫が持続しているうちは、ワクチンの効果が期待できません。初乳を十分飲めなかった動物では早い段階で移行抗体の効果がなくなり、感染のリスクが上がります。

すべての動物において移行抗体がどれくらいあり、それがいつまで続くのかを調べるのは現実的ではないため、一定の間隔で複数回ワクチンを接種することで移行抗体の持続期間に個体差があっても、免疫が上がるようにプログラムを組みます。1 カ月齢という若い月齢でワクチン接種することがありますが、早めに接種したからといってワクチン接種のプログラムが早く終わるわけではありません。

当院では、6～8 週齢で初回のコアワクチン接種を行い、16 週齢またはそれ以降まで 2～4 週間間隔で接種を行うことを推奨しています。さらに、確実に免疫を得るために 26～52 週齢を目安に再接種を行います。

ワクチンを接種しても効いているとは限らないので、1度は抗体価を測定しても良いかもしれません。抗体価の測定は院内で採血を行い、検査センターへ検体を送るため結果が出るまで数日かかります。

16週齢以降に接種したワクチンの効果があるか、抗体価を調べ、もし抗体価が低ければ早い段階での追加接種が必要になります。

※抗体価の測定は、パルボウイルスのみになります。

追加接種はいつ？

飼育環境や個々の免疫状態によって接種頻度は変わってきます。

コアワクチンを接種した猫の抗体価(免疫の程度)を調べた論文では、パルボウイルスに対しては7.5年間、ヘルペスウイルスとカリシウイルスに対しては3~4年間高い抗体価が維持されていました。
このような結果からガイドラインではコアワクチンの接種は3年以上に1回を推奨しています。

※ヘルペスウイルスとカリシウイルスは、飼育環境によって接種頻度が変わります。

低リスク環境：猫カゼの症状もなく、他の猫と接触しない⇒3年以上に1回ワクチン接種

高リスク環境：猫カゼの症状が出る、多頭飼育で猫カゼの症状の猫がいる⇒毎年ワクチン接種

成猫では抗体価が十分なら、ワクチンを追加接種する必要はありません。

子猫の頃にきちんとしたワクチンプログラムで接種しても、時間とともに抗体は減っています。しかし、メモリーB細胞というウイルスなどの情報を記憶する細胞が機能していれば、ウイルスの侵入時に速やかに抗体を作ることができます。つまり、検査で抗体価が低くてもウイルスの感染は防御できます。

問題は、このメモリーB細胞が機能するかを調べる手段がないということです。

調べられるのは抗体で、抗体が十分なら感染は防御できますが、抗体が不十分な時は、感染は防御できるかもしれないし、できないかもしれない、としか言えません。

ワクチン接種を3年以上に1回にするのは、ワクチンの副作用を減らしたいからです。

また、ワクチン接種していない年はワクチン証明書を発行できないため、それらが必要な施設(トリミング、ペットホテル等)は利用できるか分かりませんので、事前に各施設へ確認してみてください。

抗体価検査のタイミング

抗体価の検査は、免疫が十分あるかを確認するために行います。以下に検査を実施するタイミングの例を記載します。

- 16週齢以降にワクチン接種したが、ワクチンが効いているのか知りたい
- 長期間ワクチン接種をしていないがペットホテルを利用したい(または入院する必要がある)
- 以前ワクチン接種で具合が悪くなったからワクチン接種できない

日本ではワクチンの接種率が低いため、感染のリスクは常にあるのかもしれませんが。

ある施設では、パルボウイルスの疑いのある猫がいて、周りの猫に次々と感染し亡くなってしまったという話を聞いたことがあります。

ワクチンで守れる命があります。

遭遇する機会は決して多くないかもしれませんが、感染してからでは遅いのです。

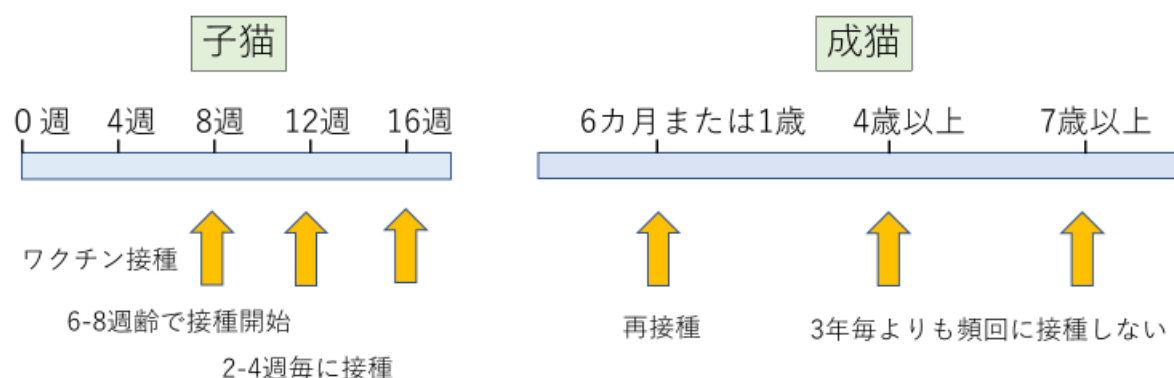
どのように接種したらいいかは、獣医師と相談して決めていきましょう。



WSAVAガイドライン

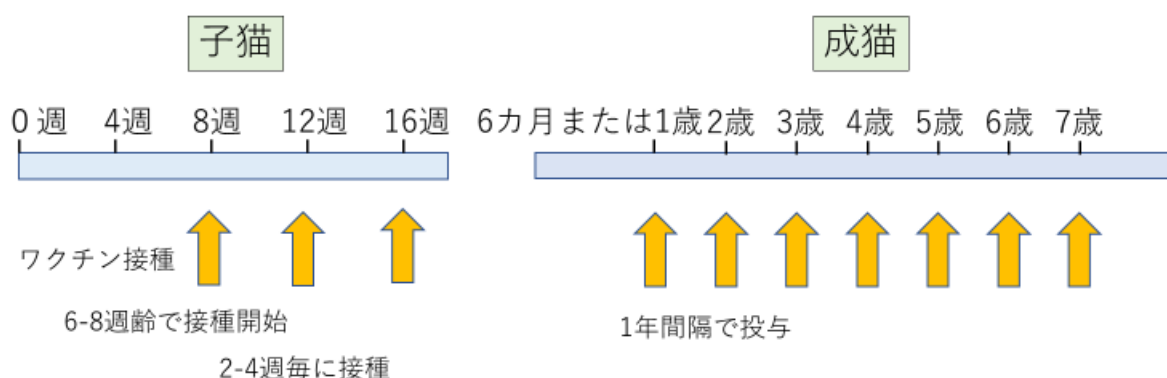
猫のコアワクチンの接種プログラム

(パルボウイルス／ヘルペスウイルス／カリシウイルス) **低リスク環境**



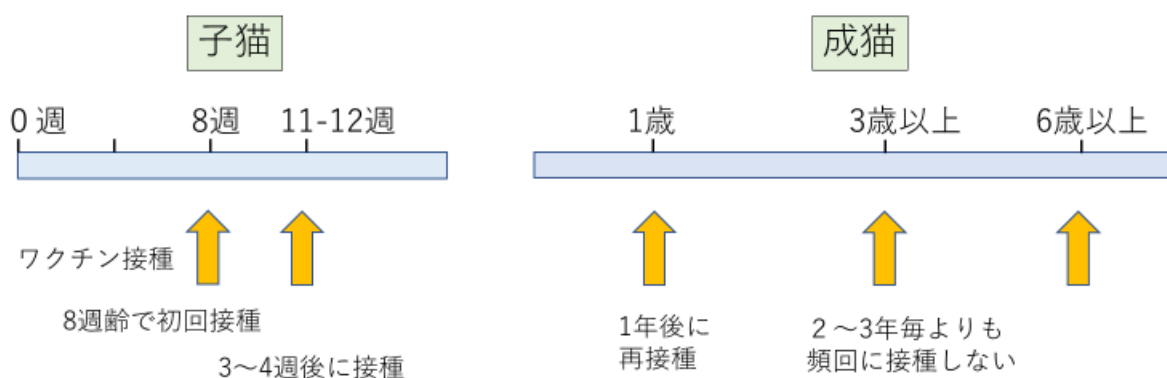
猫のコアワクチンの接種プログラム

(パルボウイルス／ヘルペスウイルス／カリシウイルス) **高リスク環境**



猫のコアワクチンの接種プログラム

(猫白血病ウイルス)



※猫白血病ウイルス陰性の猫のみに投与